

情報交換会記録(要旨抜粋)

「ゆうゆうプラザ情報交換会(全体会)」	
趣旨	各ゆうゆうプラザ(実施委員会)の情報を交換し、今後の放課後子ども教室の運営に生かす。
日時	令和4年11月22日(火) 10:00～
会場	鷲宮総合支所 会議室
参加者	59名
内容	話合いのテーマ 「各ゆうゆうプラザの現状と課題について」

運営 ○各グループ(4～5名)で自己紹介

○情報交換・意見交換

○グループ記録の集約・発表

※コロナ禍における情報交換のため、感染対策等に配慮することから、各ゆうゆうプラザ(実施委員会)からの参加者は3名程度に限定

指導者・実施委員の高齢化が課題である。若返りの方策を検討したい。コロナ禍なので活動内容を精査し内容を限定した。対面による講座が少なくなり、人数制限をすることにより参加児童数が減少した。
参加者への配布のための印刷物は極力少なくし、校内の通信システムを活用し、オンライン(スマホ・メール・各教室のモニター等)による動画配信、参加者募集、中学生サポーターの募集等を行った。
暑さを考慮し、10月から短期集中(月に3～5回)で講座を実施した。
ボッチャを積極的に導入している。地域の方や保護者等も含め三世代によるボッチャ大会を計画している。用具の確保に苦労している。
近隣の学校で親子参加型の合同講座(ペットボトルロケットやロボット)を実施した。多くの参加者があり、学校間の交流にも役立った。
中学生サポーターが増えている。中学校長に正式にボランティア募集の案内を働きかけた。ゆうゆう経験者の卒業生が積極的にサポーターに登録した。本年度は市内で150人を超える中学生サポーターの登録があった。参加児童も中学生になついている。
実施委員、サポーターの高齢化への対応が急務である。保護者の参加についても工夫が必要である。若い保護者もいろいろと忙しいので、曜日限定とか、サポート内容の軽減等、参加しやすいようにハードルを下げるようにする。
コロナ禍での指導者ボランティア確保が難しくなっている。サポート体制の工夫が必要である。
コロナの感染状況によって、参加児童や指導者が集まりにくい。新規の講座、講師を探すのが難しい。
道具の使い方のわからない子が多くなっている。最初から教えるなど講座の工夫が必要である。けがや事故防止が最優先となる。
参加児童数が多く全講座同時に実施できない。講座内容に飽きてしまう子も増えているので工夫が必要である。
「おやじの会」の組織がある学校もあるので、父親の人材発掘を検討する。保護者を巻き込んだ活動を進めたい。土曜日の学校施設の開放が難しい時は、市の施設の活用を考えてもよい。

<p>学校の先生方にも見学などをしていただき、ゆうゆう活動の様子を見ていただきたい。子どもたちは、普段の授業とは違う表情を見せていることもあるので、子どもの理解にもつながる。</p>
<p>ゆうゆうサポーター募集のチラシを地域の回覧で回している。高齢者が多くなることも心配だが、広く地域に周知することは必要である。また、ペーパーレスで Google フォームで募集している。中学生サポーターを QR コードで管理している。中学生に募集のチラシを配布している。ボランティア手帳を活用している。</p>
<p>ゆうゆうの活動に誇りをもって取り組んでいる。子どもの成長する姿を目にすることができてうれしい。今後も皆で協力しながらゆうゆうの活動を楽しみたい。</p>
<p>オンライン講座は、コロナ禍では良さもあるが、子どもたちは人と交わって成長するのでなるべく避けたほうがよい。コロナ禍でゆうゆうの楽しさを伝えられず、参加児童数が減少した。コロナ対応の活動の進め方が難しい。</p>
<p>学校の先生方の理解と協力が増している。放課後といえば、ゆうゆうという認識が出てきた。校長先生の協力が大きい。PTA の組織を活用したい。</p>
<p>参加児童、保護者への連絡手段としてラインのオープンチャット機能を試してみたい。また、実施委員の高齢化によりラインの対応が難しく、PTA 等との協力体制を構築し、作業の効率化を図るため、若い人材の確保が急務である。</p>
<p>講座によっては指導者と相談の上、低学年と高学年に分けて募集しているが、学年間の交流はゆうゆうの良いところなので危険がなければ出来るだけ一緒に実施したい。</p>
<p>申し込みをグーグルフォームにしたら実施委員の作業量が激減した。学校 HP や TS メールを活用している。ゆうゆうの HP をつくり、学校の HP に入れてもらっている。</p>
<p>コロナ禍で未実施期間があり、ゆうゆうの良さが保護者に伝わっていない。特に、低学年の保護者は経験が少ないので PR に努めたい。</p>
<p>中学生サポーターに期待している。意欲的に参加していただき感謝している。中学校長と連携を密にすることにより、ゆうゆうの活動時間に中学生が間に合うように、下校時間を配慮していただいている。ゆうゆう経験者に卒業する時にボランティアへの参加を呼び掛けておく。不定期なので人数の把握が難しい。</p>
<p>参加児童の安全な下校が課題である。一人での下校など地域によって対応が難しい。自治会や区長会等、安全な見守り活動に協力いただいている方に周知する。</p>
<p>講座にボッチャを取り入れたゆうゆうプラザが多くなった。用具の借用が難しくなっている。購入も検討しているが、実施委員会単体では難しいので学校と相談している。今後ゆうゆうの交流会でボッチャが実施できればいいと思っている。</p>
<p>土曜講座は保護者が送迎するので保護者の参加が期待できる。親子対象の講座を企画している。特に、父親の参加が多くなっている。</p>
<p>子どもスタッフに実施委員の作業を手伝ってもらおう。始まり・終わりの放送、記録写真の撮影、参加者の集計、ゆうゆうノートの整理、シール貼り等を行ってもらおう。責任を持たせることにより意欲が高まった。</p>
<p>ゆうゆうノートの活用を工夫する。参加児童の意欲が高まるように、コメント、頑張りシールなどを活用している。</p>
<p>ゆうゆうプラザの活動を地域や保護者に広く周知する。活動の様子を公開したり、回覧板による広報、ゆうゆうだより、学校の HP 等を活用する。学校運営協議会や PTA 会議等において、活動の様子を理解していただき、今後のあり方について意見をいただき、協力をお願いする。</p>
<p>人材確保として、サークルや関係する団体、企業等の協力をいただく。また、各ゆうゆうプラザ同士で横のつながりを持って講師や講座を共有できるとよい。各会場の日程調整が必要となる。ゆうゆう見学会は参考になることが多い。</p>

<p>ゆうゆうプラザの活動を通じて地域の子どもたちと顔見知りになり、いろいろな所で出会ったり、あいさつをもらう機会があり嬉しかった。ゆうゆうプラザでの交流により自分自身も元気をいただいている。</p>
<p>ゆうゆうプラザ開始前の集合時間帯にケガ等の事故が発生しやすいので、活動サポーターが声かけを行い、ケガ防止に努めている。参加児童がケガをした場合（軽い場合も含めて）、必ず保護者に連絡をする。</p>
<p>緊急時の対応や体調不良の手当の仕方について、校長先生や養護の先生と連携して行っている。インフルエンザや新型コロナ対応について、共通理解のもと同じ歩調で対応することが大切である。</p>
<p>実施委員、サポーターの高齢化が課題である。なかなか新しいメンバーが増えない。人材確保について、あらゆる機会を通して働きかけてほしい。熱意だけでは限界もある。また、魅力的な活動になるように、ボランティア任せではなく、金銭面での配慮も必要かと思われる。</p>
<p>PTA 組織の中に、ゆうゆうプラザ担当委員を設置している。保護者同士や地域の方との情報交換の場になっている。楽しく、お喋りをしながら活動している。実施委員会と PTA との連携の在り方を模索する。</p>
<p>地域のネットワークを駆使し人材確保に努める。HP を活用し、サポーターの活動内容や活動記録を公開し、広報に努める。</p>
<p>放課後子ども教室「ゆうゆうプラザ」では、普段の学校の授業では経験できない貴重な体験の機会となっている。また、ゆうゆうプラザの活動に携わる実施委員や多くのサポーターにとっても充実したかけがえのない機会となっている。人的支援や予算面でのバックアップが更に必要と思われる。</p>
<p>開設講座がマンネリ化していないか、保護者や子どもたちの希望など把握できる手段を考えたい。アンケートや情報交換などを行いたい。</p>
<p>各ゆうゆうプラザで現状や課題が違ってくるようになりました。今後、皆で協力しながらゆうゆうの活動を楽しみたい。</p>

